

第31回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

開催日時 6月19日(火)

会場 阿須運動公園ホッケー場

天候 雨

【全試合結果】

<阿須運動公園ホッケー場>

第1試合 9:30	女子 三位決定戦	山梨学院大学	4	{	1 - 0 3 - 0	}	0	駿河台大学
第2試合 11:30	男子 三位決定戦	立命館大学	7	{	1 - 0 6 - 1	}	1	明治大学
第3試合 13:30	女子 決勝	東海学院大学	6	{	3 - 0 3 - 1	}	1	天理大学
第4試合 15:30	男子 決勝	早稲田大学		{	0 - 1 -	}		天理大学

【各試合の結果・詳細】

阿須・第1試合

女子三位決定戦

山梨学院大学 4 { 1 - 0 } 0 駿河台大学

<得点>

山梨学院 20分・#19佐藤 50分・#5中畝地 51分・#19佐藤 67分・#5中畝地

駿河台

<戦評>

大会最終日、両チームとも連日試合をこなし疲れも少なからず残るなか、阿須グラウンドにて三位決定戦が行われた。この試合のオープニングシュートは山梨学院。5分に#8松瀬がヒットでゴールを狙うがわずかに左に逸れる。さらに14分には#9浦島が持ち込んでシュートを放つが、駿河台ディフェンスもしっかりとコースを限定し、簡単にはゴールを決めさせない。すると18分に駿河台の#10大野がシュートを打ち初めてのチャンスを作ると、その直後にはゴール前にボールが提供されるが、あと一步決めきれない。対する山梨学院も反撃に転じる。20分に#19佐藤がリバーシットを放つと、これが見事に駿河台ゴールに決まり、先制点をあげる。得点の勢いそのままに攻め込むと23分と、30分にもPCを獲得。スイープからのタッチやフリックなどさまざまなパターンを織り交ぜ、ゴールを狙うも駿河台の集中したディフェンスから得点をあげることができない。このまま前半が終了し、山梨学院の1点リードで後半に入る。43分に山梨学院の#5中畝地の突破からチャンスを作ると、駿河台も45分に#15鈴崎がリバーシットを放つなど一進一退の攻防を繰り返す。この展開を先に制したのは、山梨学院。50分獲得したPCを#5中畝地が押し込むと、その1分後にも一点を加え、貴重な追加点をあげる。さらに攻めたてる山梨学院は63分にPCを奪い、そのPCを#1伴田が鋭いスイープを打ち、駿河台ゴールを脅かすと、67分に#5中畝地が本日2点目となるゴールを決め、さらに差を広げる。そしてこのまま試合が終了。関東同士の対決は山梨学院に軍配。この瞬間、山梨学院大学の3位、駿河台大学の4位が確定した。

TO	野澤 光代	アンパイア	塚本 善士
ジャッジ	櫻本 千恵子		大西 揚士

阿須・第2試合

男子三位決定戦

立命館大学 7 { 1 - 0 } 1 明治大学

<得点>

立命館 16分・#9森 40分・#1藤吉 42分・#8堀江 54分・#1藤吉 56分・#21高橋 60分・#5伊藤 63分・#9森

明治

45分・#23大嶋

<戦評>

今年度の全日本大学王座決定戦から導入された3位決定戦、小雨が降りわだかまった雰囲気の中明治大学のセンターパスにより前半戦が開始された。開始直後に立命館が強烈なプレッシャーを仕掛けて明治からボールをカットすると、ハイスピードな速攻を仕掛けて早速でPCを獲得する。ここで立命館#5伊藤のフリックで先制を狙うも弾かれてしまう。立命館大学はフィールドを広角に使ったボール回しからロングボールでFWに繋いでハイスピードでの攻めを展開する。明治大学は細かくパスを繋いで持ち前の個人技を發揮させてチャンスを演出しようとするが、立命館の強烈なプレッシャーに苦戦する。いきなり流れを持ってきた立命館は、隙があれば速いドリブルを仕掛けてチャンスメイクを試みて、明治大学は防戦を余儀なくされてしまう。そんな試合展開が続く中、前半16分に立命館がPCを獲得すると#9森のフリックシュートで遂に先制点を叩き出す。その後も立命館#1藤吉の高速ドリブルなどで何度もチャンスを演出するも、明治GKが好セーブを連発して追加点を許さない。前半戦は明治大学に取っては防戦一方で苦しい展開になってしまった。

後半になると、雨が強くなってくる。立命館はいきなりヒットを相手陣地に打ち込み、フルプレス仕掛けにいく。そして、強いプレスでボールをカットするといきなり立命館#1藤吉のヒットシュートが炸裂するもGKがセーブを魅せる。さらにフルプレスで攻める立命館に圧倒され明治はまたもや防戦を余儀なくされ、後半5分立命館#1藤吉がGKを左にかわしてリバーシットで華麗に決めて追加点を挙げる。すると明治大学のDF陣に焦りが目立ち始め、サークル外でPCを取られることが多く見られた。そして、後半7分に立命館#8堀江がサークル内を巧みなドリブルでDFをかわしていきヒットを打ち込んで3点目を挙げる。後半からは明治が徐々に反撃を見せるようになり、カウンターから攻めるようになると、後半9分にPCを獲得して、上手い連携でDFをかわして明治#23大嶋がハイプレスを決めて1点取り返す。しかし、立命館はプレッシャーをかけて主導権を再び非握ると後半18分にPCを獲得し、それを立命館#1藤吉が角度のあるタッチを決めて明治を突き放す。さらに、後半21分にカウンターからPCを獲得すると、フリックフェイントから立命館#21高橋にパスを出して高橋がフリックで決めて魅せた。明治も猛攻を見せるもGKにセーブされ得点することが出来ない。そうしたなか後半25分に立命館にPCをとられ、これを立命館#5伊藤の強烈なフリックで決められてしまう。さらには、後半28分にも立命館#9森がスライディングしてきたGKに対してループシュート決めて7点目を挙げた。明治も反撃してPCを獲得するが、その後に得点が動くこと無くし合い終了のホーンが鳴り響いて、立命館大学が3位になった。

TO	越湖 隆一	アンパイア	渡邊 道彦
ジャッジ	馬場 治男		木下 英貴

阿須・第3試合

女子決勝

東海学院大学

6 { 3 - 0 } 1

天理大学

<得点>

東海学院 5分・#9永井 30分・#9永井 32分・#11小沢 42分・#7市山 46分・#11小沢 54分・#17松村
 天理 57分・#10遠藤

<戦評>

全日本大学ホッケー王座決定戦女子の部、東海地区代表の東海学院大学と関西地区代表の天理大学の対戦カードによる第31回目の決勝戦が阿須グラウンドにて行われた。天理は持ち前の素早いパス回しから攻撃をしかけ、3分に#10遠藤が強引にシュートを放ち、この試合はじめての得点チャンスを作る。対する東海学院の最初のチャンスは5分。#9永井がサークル手前でフォアターンから強烈なシュートを打つと、こちらは見事に敵のゴールに突き刺し待望の先取点を奪うことに成功する。するとここからさらに両チームの攻撃がヒートアップする試合展開となる。7分に東海学院の#2大橋がドリブル突破からチャンスを演出すると、10分には#9永井が強烈なリバースヒットでゴールを狙う。しかし天理のGK景山のファインセーブなどでピンチを防ぐと、14分にスイープでの打ち込みを#10遠藤が合わせるなど、天理も得点につながるプレーを披露する。そんな中21分、東海学院の#4義浦にグリーンカードが提示され、天理が数的有利になり、一気に攻めこみたい場面だったが上手く敵のディフェンスをかいくぐることができない。人数が同数に戻るとここから徐々に東海学院のペースになり、30分に敵のボールをカットした東海学院は一気に攻め上がり、右サイドを突破。そして#9永井が落ち着いてGKの足元をぶち抜き追加点をあげると、2分後には#23真野のヒットシュートのこぼれ球を#11小沢がしっかりと詰め、前半は東海学院の3点リードで終了する。

後半東海学院のセンターパスにより試合が始まると、前半同様東海学院の縦への素早い攻撃がさえわたる。さらに天理の#11伊藤が2分間退場処分となると、この隙を活かしてさらに攻めに転じる。すると数的有利の間に東海学院の#7市山がゴールを決め、後半もゴールを奪うと46分にはリバウンドを#11小沢が押し込む。54分にもゴール前の混戦から#17松村が決め、6-0と一気に差を広める。このままじゃ終われない天理は57分、#10遠藤が意地のゴールを決め、1点を返す。しかし東海学院の勢いを断ち切ることができず、最後の最後まで東海学院が攻めきり、そしてまもなく試合終了を告げるホーンがなった。この瞬間、東海学院大学は全国の大学が集うこの大会でタイトルを獲得。グラウンドにはピッチの選手とベンチの選手全員の歓喜の輪が広がっていた。

TO	清水 恭子	アンパイア	我妻 順子
ジャッジ	櫻本 千恵子		小原 直也
		サジェスチョン	石橋 徹也
		アンパイア	渡邊 道彦

阿須・第4試合

男子決勝

早稲田大学

{ 0 - 1 }

天理大学

<得点>

早稲田
 天理 20分・#6三谷

<戦評>

※悪天候のため、前半終了時点で順延が決定致しました。後日、後半残り35分から再開致します。代替日および会場等については、決定次第ご連絡致します。

TO	越湖 隆一	アンパイア	近藤 聡史
ジャッジ	竹内 芳郎		戸塚 洋介
		サジェスチョン	木下 英貴
		アンパイア	塚本 善士

以上